



人物・デンマーク

【ソーレン・オービエ・キェルケゴール】

—— キルケゴールと実存主義 ——

キルケゴールはコペンハーゲン生まれの哲学者である。哲学者としてはニーチェやサルトルが有名で、哲学にあまり興味のない方でもその名前を一度は耳にされていると思うが、『キルケゴール』??と思われた方が多いのではないだろうか。実は、キルケゴールは実存主義の創始者、またはその先駆けと評価されている人物なのである。



ソーレン・オービエ・キェルケゴール
(Søren Aabye Kierkegaard)
1813-1855

キルケゴールは1813年、父ミカエル母アーネの間に7人兄弟の末っ子として生まれた。両親はユラン半島西部のセディングという村で暮っていた貧しい農民であったが、父ミカエルはコペンハーゲンに移り住みビジネスで大成功を収めたため、セーレンは裕福な家庭で育てられた。コペンハーゲン大学へ進学して、神学と哲学を学んだのだが牧師にはならなかった。この時期に出会ったヘーゲル哲学と、形式ばかりにこだわるデンマーク教会に強く反発。父ミカエルのかつて貧しさを神に呪ったことへの罪の意識は彼の精神に強い影響を与え、また自らも17歳年下のレギーネ・オルセンとの婚約と破棄の体験によって、深く思想の世界へと進み、思索・著作に専念し数多くの著書を残す。1855年10月に路上で倒れ11月に42年間の生涯を閉じた。

キルケゴールの実存主義が注目されたのは、第一次世界大戦終結後である。国民国家という体制は第一次世界大戦の国家総力戦による大量破壊へつながり、西欧の進歩主義への進行は大きく揺らぐこととなった。とりわけ国土が直接戦場となり、敗戦国として重い負債を背負わされたドイツにとって、進歩主義の崩壊は強い衝撃であり個人を置き去りにした近代思想の惨禍を目の当たりにして、故人を哲学的考察の対象しようという機運が盛り上がり、一時代前の人物であるキルケゴールが注目を浴びることとなった。

キルケゴールの哲学は実存主義であり、一般・抽象的な概念としての人間ではなく、個人・具体的な存在としての人間を対象としていることが根底にある。実存とは、ともかく実際に存在すること。あなたは始めから決まっているのではなく、まずあなたが存在し、あなたが活動していくことでどのような人間かが決まっていく...とでもいおうか。

キルケゴールは自分の体験を経て、「実存」である人間が本来の自己に至るまでの過程には、3つの段階があると考えた。

1. 「美的実存」感覚のままに快樂を求めて生き、自己を見失い、後にはただ虚しさだけが残る→絶望
 2. 「倫理の実存」倫理的に正しく生きようと、〇〇すべきという基準で行動するが完璧にできない現実に気づき、良心の呵責に悩む→絶望
 3. 「宗教的実存」人間の限界に気づき、神の前にただ一人立ち、自己の存在を神に委ねる
- この絶望を経由した3段階を経て、人間は本来の自己(実存)を獲得すると考えたのだ。キルケゴールには「死に至る病」という著書があるが、そのなかでも死に至る病気というのは絶望を意味していて、結局人間は神との関係をとり戻すことによってのみ、絶望から抜け出すことができるとも語っている。

後に、実存主義はニーチェやヤスパースを経てサルトルへと繋がる。近代化を背景にして、神に委ねるのではなく行動を通じて自分の意志や思想を表現することで自己を獲得するという、無神論的実存主義を彼らは唱えた。その前提は神の存在の否定であり、キルケゴールの実存主義とは違っている部分である

M.Y

2014年デンマーク短期留学IPCサマーコース

今年で2年目のデンマーク短期留学IPCサマーコース、当NPO会員の方を中心に9名の方が参加し7月27日～8月9日までの2週間、英語はもちろんのこと・デンマークの文化・教育・歴史・社会・デザインなど世界各国の人達と共同生活し触れ合いながら、沢山の事を学び経験をしました。



～デンマーク短期留学サマーコースに参加して～



2週間という短い期間での留学ではありましたが、学んでくるものがたくさんありました。語学だけではなく、寮での生活や人生の先輩たちに囲まれ、人としても成長できたのではないかと思います。そしてデンマークの教育や税制度、文化、今まで知らなかったことを知りとっても視野が広がりました。そしてとてもデンマークの事に興味を持ち、より知りたいと思うようになりました。(H.K)



初めは英語がおぼつかなく、不安でしたが、IPCの魅力的なカリキュラムや講師陣のおかげで英語への抵抗がなくなり、理解できるようになってきました。またデンマークの政治、文化、教育の授業では、デンマークが幸福国家として成り立ってきた所以などを知ることができ、日本との違いに大きく驚かされました。遊びに勉強、私の中で今までにないと言っているほど濃密な2週間でした。新たに学びたいことも見つけることができ、良い経験ができたと思います。(D.T)

日本で苦勞して覚えていた単語も文法も向こうで使いながら学ぶので、一気に身についていくのを実感しました。それと同時に、デンマークを通して日本の未来のあり方や、特徴を考える良い機会だったと思います。そして、英語を使う楽しさや、大切さを学びました。素敵な仲間と明るくてとても親切で優しい先生達と過ごした今年のこの2週間は私にとって忘れられない最高の思い出です。(K.O)



デンマーク農業理事会の活動

9月10日(水)

「デンマークポーク」ご愛顧感謝の集い

沖縄県では「デンマークポーク大好き」キャンペーンを実施しております。(沖縄県限定)

11月11日(火)～12日(水)

チーズフェスタ2014開催

会場 EBIS303 3Fイベントホール
JR恵比寿駅から徒歩3分
今年は会場が変わります

11月13日(木)

「ポークアカデミー卒業生同窓会」

ポークアカデミー卒業生同窓の方々との親交を深め、また情報交換の場所として同窓会を開催いたします。ポークアカデミー卒業生の方には後日詳細をご案内させていただきます。

11月15日(土)

「第14回Danish Pork 親睦ゴルフ会」

今年もDanish Pork親睦ゴルフ会を開催いたします。お問い合わせはデンマーク農業理事会まで

あなたはこの出来事をどのように思いますか？

2月9日、コペンハーゲン動物園は遺伝子的に子孫を残すのには適さないと称してマリウスという2歳のキリン(オス)を殺処分しました。殺処分されたキリンの死体はその後、獣医によって来園客の前で検死解剖が行なわれ、キリンに関する様々な解剖学的、生理学的、病理学的な情報の収集に使われた後、検体の一部を研究機関などに譲渡されました。残りの死体は切り分けられ、同動物園で飼育されているライオンやトラなどの肉食獣の餌として使用されました。

殺処分の決定は以前から公表されていて、様々な動物愛護団体や一般人による署名活動によって助命が求められたりしました。また複数の施設がマリウスを引き取りたいとも名乗り出っていたそうです。

この出来事はデンマーク国内に限らず、日本でも話題となり波紋を呼びました。

編集後記

夏も終わり涼しくなってきました。夏の嫌いな私にとってはうれしく、これからクリスマスまでが一番大好きな時期です。食欲の秋です！今年は庶民の魚、さんまが高いようです。野菜も高く、肉も高く・・・献立を考えるのがまた一苦勞、今日は何にしようか？安くても栄養があり沢山食べられるレシピを知っている方、教えてください。(K.H)